



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』、『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)、『雲の上で出会った超一流の仕事の言葉!』(あさ出版)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 262

「オンナの言い分・オトコの本音、さて!?!」

聖書は「妻は神に従うように夫に従え」と説く。日本は嫁しては夫に従え、女は三界に家なしの“三従”で、父・夫・子に従うものだった。米国49%、日本は3組に1組が離婚。判断力の欠如で結婚し、忍耐力の欠如で離婚し、記憶力の欠如で再婚する! 両親の怒鳴り合いで娘は泣き叫ぶ。「大きくなっても結婚なんかしないわ、パパやママみたいになりたくないもの」

どの国も最大の離婚原因は、夫が妻の気持ちに抱く無反応・無関心でムカつく=愛の反対は憎しみではなく無関心。家庭は夫の城。夫「久しぶりに食後に散歩しないかい?」、妻「ええ。でも、やることもあるし。それより最近太ってハゲてきたし、嫌ねえ」。まだ終わらない。「一日中イライラして、お父さんみたいになるわよ!」と、子供の前でよその夫と比較する妻へ、「どうして君は僕が何かを決めようとするたびに文句をつけるんだ!」と、自分のリーダーシップに異を唱える妻へ反撃が始まる。夫は寂しく途方に暮れ、妻に拒絶されたと感じて不機嫌に振る舞い、早めにベッドに入る。“しかしの否定”からは何も生み出せない。同じ方向を向く努力が必須となる。

他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる! 夫が物申せば妻も同じ方向にベクトル合わせの「夫唱婦随」。男は、秩序を好み、口うるさいガミガミ女、第二の母親を嫌う。理解し、優しさで自信を持たせてくれ、あるがままの自分を受け入れてもらいたい寂しがり屋。妻の意思で勝手に夫を変えようとしなことが愛。必要なのは妻の口ではなく耳。夫を批判し、やり込めるのは最悪の妻。夫に返すべき最良言葉は、「ええ、そうしましょう!」と同じ方向を向くだけで家庭円満に十分すぎる。言葉が変われば、心が変わる、心が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が

変わる、習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる。そう! 言葉を変えるだけで、運命が決定づけられるのだ。

心に3匹の“タイ”が住んでいる。認められたい・誉められたい・お役に立ちたい。夫は自己の考えや知識披露で認められたい、妻は愛されたいと願う。「あなたが一番! 凄い! それ知らなかった!」と他人より優れたナンバーワンだと伝えると、男性ホルモン・テストステロンが高まり、幸福感を満たすドーパミンが分泌され、“やらされている百発よりもヤル気の一発!”。疲労感も軽減される。城の殿様を立てるには、家の中がこう変わったらしいなあと思うアイデアを6項目書いてもらう。毎日一度は、「ええそうしましょう」「ありがとう」「それっていいわねえ」を言い、“SOS”を頻繁に口にする。Sは「素晴らしい! 凄い! 素敵!」、Oは「面白い! 驚きました! お蔭様で!」、Sは「流石! 最幸」。疲れて帰ってきた夫を、溜息とあくびで迎えるのは失望と怒りしか与えない。高級レストランで向かい合って食事をするより、絶叫の吊り橋でスリルを共有して手を握り合う。仲が冷めたら、一緒に観劇に出掛けて同じ方向を向く話題作りをする。お互いに相手の良いところだけ30個を書き出して、読み上げる。これらは絶大な効果がある。

JAL・CAの結婚式での私のスピーチは「妻は、良き外交官・良き秘書・妖艶な娼婦であれ!」と。夫自慢の輝く恋人、社交的外交官、オシャレは永遠に。化粧スツピンで髪を振り乱してスリッパでゴキブリを叩いている姿は魔女! 安心して任せられる家庭才媛! 子供は親の言うことは聞かないが、親の真似はする。誉めて育てる名調教師。オスを誘惑する小さな悪魔のメスであれ! そしたら他のオンナには目もくれず、我が家に直帰して、素敵な贈り物を貰えるだろう! 喜び上手は、生き方上手。